

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理⑩ —ナツツバキ—

日本樹木医学会富山県支部
樹木医 西村 正史

6月中旬から7月上旬にかけてヤマボウシと花の形は違うものの、白い花を咲かせる高木性の樹木があります。これはナツツバキという樹木で、ツバキの仲間です(写真1)。里山で見ることができますが、庭木としても植栽されていますので、市街地でも見ることができます。

1. 特徴

この樹木は、宮城県以西の本州、四国、九州の山地に自生しています。ツバキというイメージから常緑樹と思われがちですが、実はこの仲間では珍しく落葉樹です。花は直径5cmほどで、花弁には繊細なしわがあり、真っ白であるために清楚感があります(写真2)。咲いた花は、その日のうちにポトリと落ちてしまいます。樹皮は成長すると斑紋状にはげ落ち、つややかな灰色を帯びた褐色となり、独特の斑模様となります(写真3)。この肌は、花とともに観賞価値に優れていますので、庭園木として植栽されている要因の1つになっています。

2. 維持管理

この樹木は、半日陰から日向で肥沃な土壌を好みます。しかしながら、乾燥の激しい痩せ地は苦手です。痩せ地に植栽せざるをえない場合には、堆肥や腐葉土を十分すき込んで、土壌条件をできるだけ、肥沃地にするように心がけて

ください。この樹木は自然に樹形が整いますので、自然に伸ばすことを基本とし、剪定する場合でも基本の樹形を崩さないようにしてください。翌年の花は8~9月頃に短枝の先端に準備されます。冬期にこの枝を切ってしまうと、花つきが悪くなりますので、注意してください。

ツバキの仲間ですので、チャドクガの被害が心配されます。被害を発見したら、ハサミ等で被害部を切断して、足で潰すなり埋めるなりしてください。その際、幼虫はもちろんのこと、枝や葉にもさわらないように気をつけてください。万が一、この虫に触れた場合には、皮膚がかゆくなりかぶれますので、直ちにお医者さんへ行ってください。たくさん発生した場合には、トレボン乳剤の4000倍液、オルトラン水和剤の1500倍液、スミパイン乳剤の1000~1500倍液等を散布してください。

なお、掲載した写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



写真1 ナツツバキ (2010.6.26 撮影)



写真2 ナツツバキの花 (2010.6.26 撮影)



写真3 ナツツバキの樹皮 (2010.6.26 撮影)